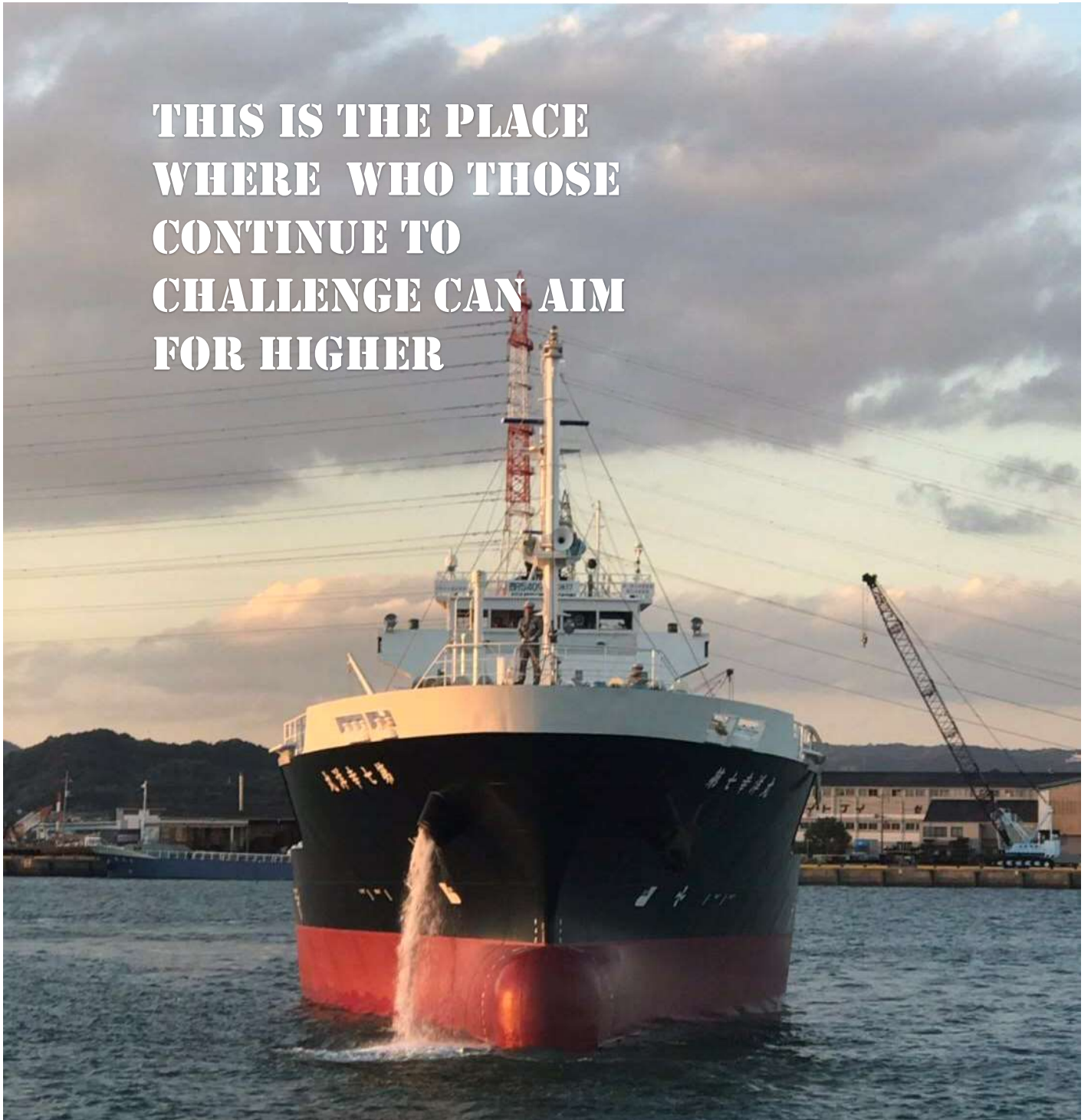




幸洋汽船株式会社
Koyo Ship Company

THIS IS THE PLACE
WHERE WHO THOSE
CONTINUE TO
CHALLENGE CAN AIM
FOR HIGHER



<https://koyokisen.com/>



1965年に創業した歴史ある船会社



来島海峡



本社・事務所

本社は瀬戸内海に面する愛媛県今治市です。
ドックは基本的に市内の造船所で行います。



会社案内

幸洋汽船は、海の豊かな今治の地で機帆船から海運業を営み始めたのが始まりです。現在は、内航タンカー船2隻を所有、1隻を裸傭船契約で預かり、3隻で運行しています。



会社概要

会社名	幸洋汽船株式会社	船種	油タンカー	
代表者名	藤澤 敏則	油送品目	A重油、白油	
住所	〒794-0026 愛媛県今治市別宮町8丁目2-35	運航船舶数	3隻	
		自船総トン数	698t、1,821t	
電話番号	0898-23-2760	主要航路	日本沿岸 (瀬戸内海～九州方面) (仙台～北海道方面)	
FAX番号	0898-23-2761			
メール	info@koyokisen.com			
HP	https://koyokisen.com	加盟船主団体	全国内航タンカー組合	
設立日	1965年3月	従業員数	陸員	4名
資本金	1,800万円		海員	44名



経営方針

乗組員、従業員が誇れる企業に

より豊かな未来のため

地域社会に貢献

質の高い安全な油輸送

共に繁栄と成長を遂げる

乗組員の状況

甲板部、機関部ともに海上技術学校や水産高校のOBが多数います。免状を取得してから弊社で経験を積んでいくものも多いですが、免状を取得していない者も履歴を付けて4級の免状を取得し、一航士、一機士として活躍しています。



主な卒業校

国立小樽海上技術学校
 国立宮古海上技術短期大学校
 国立清水海上技術短期大学校
 国立波方海上技術短期大学校
 小樽水産高等学校
 宮城県水産高等学校

乗組員の構成

北海道:13名	千葉:2名	鳥取:1名
宮城:6名	東京:1名	長崎:2名
秋田:1名	神奈川:3名	福岡:1名
岩手:1名	兵庫:1名	鹿児島:1名
富山:1名	愛媛:3名	
栃木:1名	香川:1名	
埼玉:3名	高知:2名	

2020年9月現在

船舶の紹介

第七幸洋丸と第八幸洋丸の2隻のタンカー船を所有し、裸備船で1隻、計3隻を運航しています。



第七幸洋丸は、総トン数1821トンの重油を専門としたタンカーです。北航路を走ることが多く、仙台や室蘭、小樽、富山などに入港します。10名程度の乗組員で船を動かしています。



第八幸洋丸は、総トン数698トンの黒油タンカーです。航路は、瀬戸内海を中心とした鹿児島から富山まで西日本が主になります。8名程度の乗組員で船を動かしています。どちらの船も司厨長が乗っています。



第七幸洋丸

平成20年建造

総トン数：1821t 3000k/l積み

積荷：A重油

ダブルハル構造

最大乗組員数 12名



第八幸洋丸

平成5年建造

総トン数：698t 2000k/l積み

積荷：黒油

ダブルハル構造

最大乗組員数： 9名



船上での様子

一度航海に出ると仕事だけでなく生活そのものが船上になります。仕事に取り組むことはもちろんですが、船上で行えるめいっぱい楽しみを乗組員は見つけて楽しんでいます。



安全についてのミーティングや積荷についてのミーティングなどさまざまな全体ミーティングが行われます。ミーティングの内容を十分に把握しておかないと重大な事故につながることもあり、一人一人が真剣に取り組んでいます。



AEDの講習会の様子です。他にもBRM研修や海上防災訓練や各種セミナー、資格受験など乗組員として必要な知識やが身につく環境を整えています。上長になれば指導力を身に付けられるようなセミナーを受けることもあり、船員としてだけでなく人間としても大きく成長することが出来ます。

東日本大震災の際には、船長の瞬時の判断により荷役作業を中止し、津波を避けるため、仙台から離岸しました。船は船体を大きく持ち上げられては、激しく海面にたたきつけられました。ベテランの迅速な判断と若手の柔軟な対応能力により無事避難することが出来ました。





船内での食事は司厨長が腕によりをかけて作ってくれます！季節感のあるメニューや「食いたい」要望にも応えてくれ、食事面から乗組員の洗浄生活をサポートしてくれています！

年末年始などは普段の食事よりも豪華なものになることが多く、船上ならではの生活を楽しんでいます♪



釣り好きな乗組員は釣りをして過ごします。大物が釣れた時などは司厨長がさばいてくれ、食事の時に刺身で食べることもあります。



船内ではWiFiの設備が整っているので、電波が届くときはゲームをして過ごす乗組員もいます。仮バースの際には船内においてある自転車を使って娯楽施設に出かけたり、買い物に行ったりします。



ドックの際にはみんなで会食に行きます。社長も含めての会食は1年に1回くらいです。



Facebookで
最近の様子を
チェック！⇒



船での様子を乗組員目線からFacebookに投稿してもらうキャンペーンを行っています。社長から投稿してくれた乗組員には今治特産の今治タオルをプレゼントしています！

業務内容

乗下船は、基本的に75日乗船、25日休暇というサイクルです。乗船日数によって補償休日は変わりますが、乗下船の都度、補償休日を必ず消化するようにしています。（年間休日100日は確保）また乗船地や船の動静によって休暇が長くなることがあります。

弊社は複数船舶を運航しておりますので、希望すれば他船員の休暇回しのため、転船を行いながら35日の乗船、12日休暇というサイクルでも働くことが可能です。

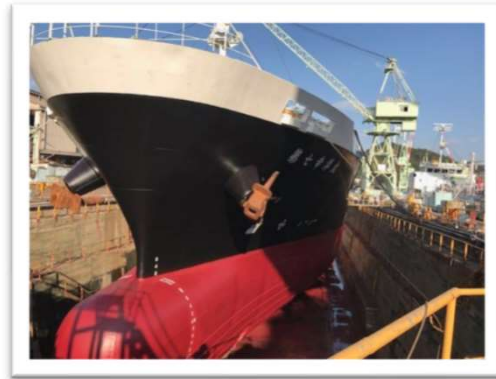
タンカーの積荷役



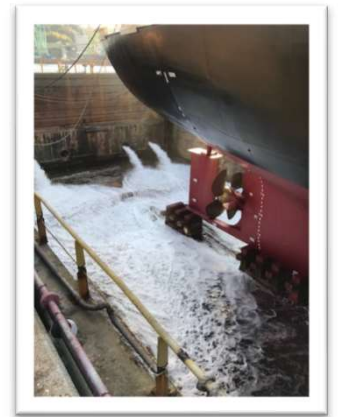
陸上施設と船の荷役配管をつなぐ作業が荷役です。船の油槽タンクを切り替える時には、100個近くあるバルブを操作し、油が漏れないよう、混ざらないよう注意しながら安全第一に作業を進めます。赤いヘルメットをかぶっているのが荷役責任者の一航士で、荷役作業が終わればすぐに出港し、次の港に向けて航海をします。

ドックの様子

1年に1回のドックの様子です。ドックは大体4日から5日かけて行われます。造船所で専門の技師たちに船の状態を細かくチェックしてもらい、修復、修繕を行っていきます。同時に乗組員たちもペンキ塗りや自分たちでできる整備などを行います。



こちらからドック入渠の動画が見れます。



before



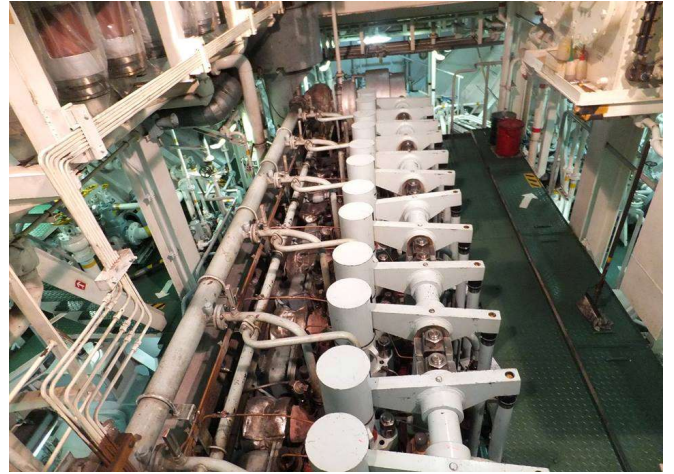
after



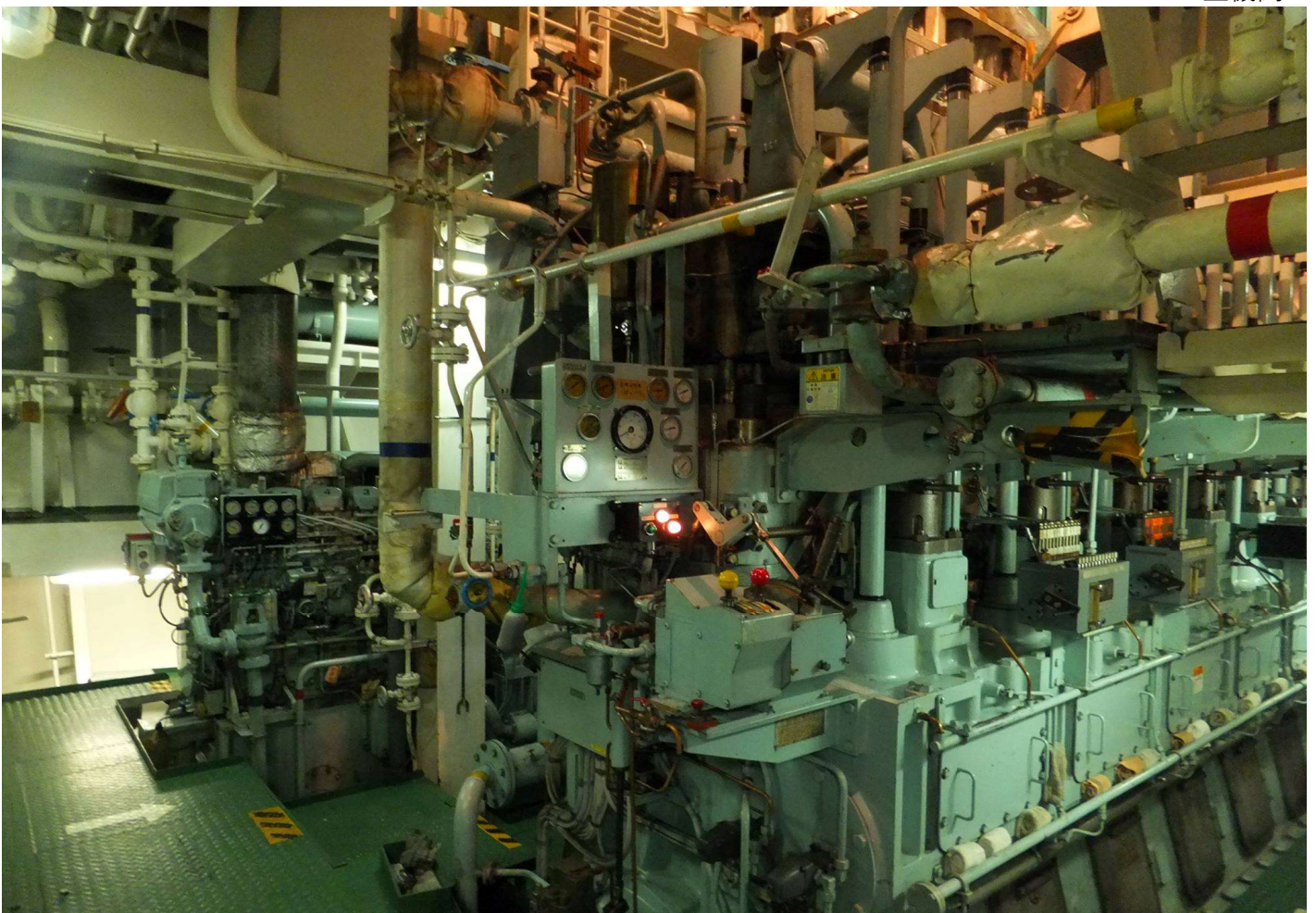
1年間海で航行した船体はペンキもはげ、海中生物などが付着していることもあります。船体をきれいにし、その後ペンキを塗って整えていきます。

機関の様子

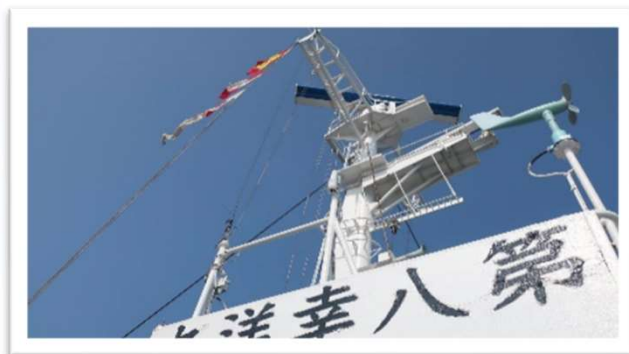
左の写真が燃料油の清浄機です。燃料油の品質を向上させる役割を持っています。
右の写真は主機を上から見た写真です。



主機関



社長から一言



船での仕事は船員になってからでないと分からないことが多く戸惑うこともあります。ロープワークやホーサーのコイルダウン、バルブの開閉など基本的なことを知っておくとスムーズに仕事に取り組みます。またモンキーやメガネなどの簡単な工具の名前を覚えておくと、船に乗った時の戸惑いが減ります。

始めは、覚えることが多すぎて仕事についていけないと思う人もいるかもしれませんが、焦る必要はありません。1年、2年と時間が経てば必ず上達するようになります。それよりも最初の3か月はまず、船の上の生活になれることが大切です。初心を忘れず、向上心を持って仕事に取り組めば、必ず技術は身につくようになります。何事もすぐに投げ出さず、辛抱強く学ぶ姿勢でチャレンジしてください。





Koyo Ship Company
2020.09